■研究発表論文

熱帯島嶼パラオ共和国における祭祀にまつわる植物利用と空間構成に関する研究

A Study on Plants Use and Space Structure Related to Ritual Events in Republic of Palau, Tropical Islands of Micronesia

野口　翠*　　飯田　晶子*　　大澤　啓志**　　石川　幹子*

Midori NOGUCHI　Akiko IIDA　Satoshi OSAWA　Mikiko ISHIKAWA

Abstract: This study aims to clarify the relations between trees-and plants-use and the ritual space structure in the tropical agroforestry. We gathered some information on traditional ceremony related to first-birth and death, recorded all plants species in certain plats around ritual spaces, and drew down the space structure. As a result, we found that kitchen garden around the house works as a place for both first-birth and funeral events and that a lot of trees and plants for the rituals can be intensively seen around the stone platform. That means Palauan agroforestry have a multi-function including cultural and spiritual meanings. However, the places where these ritual events are held have been changing from time to time. Though the first-birth ceremony is still held near houses, burial place is now chosen from various alternatives, such as tomb near the house, in the forest or public cemetery on hill top. Space structure also differs from place to place. That implies that traditional space structure -united relationship among daily-life, new born, and death ceremony- has collapsed.

Keywords: *Ritual Space, Plants Use, Agroforestry, Tropical Island*
キーワード：祭祀空間，植物利用，アグロフォレストリー，熱帯島嶼

１．はじめに

祭祀は,祖先や自然への畏敬の念の表象として,世界各地で様々な形態のものが執り行われている。中でも，未開の熱帯雨林や水資源の有限性という厳しい環境条件を有する熱帯島嶼地域においては，人と自然との共存関係が模索される中で，アニミズムやシャーマニズムの発展をみた[1]。それ故，祭祀・儀礼においては，神々の象徴である地域固有の自然資源が用いられ，人々の環境利用や祭祀の行われる空間秩序を司る一つの秩序を形成していた[2]。しかし，こうした伝統的な祭祀は，口承文化として伝えられている上，生活スタイルの近代化に伴い失われつつあるため，文書による記録の意義がいわれている[3]。本稿では，伝統的な生活文化が残りつつも，今後の開発が予想される地域であるミクロネシアの島嶼国パラオ共和国（以下，パラオ）を事例に，祭祀にまつわる植物利用と，祭祀の実施される空間の特性を明らかにすることを目的とする。

祭祀は人々の自然観や死生観を象徴するものとして，民俗学の分野で多くの研究がなされてきた。空間との関連性を扱ったものとしては，集落スケールでの空間構造を明らかにした金城[4]や村武[5]の研究があるが，建造物の配置に重きが置かれており，家周りの植栽に特化したものではない。パラオにおける植物利用について，飯田ら[6]は，農地と林地の混在した伝統的土地利用であるアグロフォレストリーの構成樹種が，伝統儀式を含め，生活と結びついた多様な目的に用いられていることを明らかにしている[7]。特に，mekesokes と総称される家周りの園芸空間は，住民の生活と密接に結び付きながら形成されており，地域固有の生活や文化の特性を多分に反映した場といえる。そこで本稿では，伝統的な祭祀が家周りの園芸空間の成立に与える影響に着目する。パラオの集落の祭祀や伝統儀式については，土方[8]やBarnett[9]による報告がなされている。本稿では，これらを参照しながら，アグロフォレストリーの一領域である家屋周りの園芸空間における植栽を中心に，伝統的な祭祀儀礼との関連を探る。

２．研究枠組み

（１）対象地

パラオは，ミクロネシア西部の熱帯地域に位置する島嶼国家である。南北約640kmに渡る586の島から構成され，主要島であるバベルダオブ島は面積331 km²を有する[10]。2006年には島東岸のマルキョク州に首都が移転されたが，経済中心地は依然，島外コロール島にあるため，バベルダオブ島は今日まで開発の影響を免れている。

調査対象地は，島西部のImeong（以下，イミョング）集落を選定した。イミョング集落は，Kramerが1908-1910年にかけて行った集落調査報告書[11]に石畳を含む空間構造が記述されている他，集落とその周辺の緑地域1, 252 m²が世界遺産登録暫定リストに挙げられるなど，歴史的価値のある集落である。従って，大規模な伝統的な祭祀や集落の空間秩序が比較的多く残存していると考えられ，対象地として適当である。集落の土地利用は，飯田ら[12]によって明らかにされている。2010年現在，池の南北に走る車道沿いを中心に，25軒の家屋が存在する。

（２）パラオにおける祭祀の特徴

パラオにおける祭祀は，親戚をはじめ多くの人々が集い，数日から数週におよび宴を共にする。それらの祭祀に際しては，妻方の家がタロイモ，タピオカといった伝統的食物を用意してもてなし，代わりに夫方の家から妻の家へお金が渡される[13]。こうした祭祀は，現地で「シューカン[14]」とよばれる。クラン（kebliil）[15]の結びつきが強いパラオでは，今日でも比較的強固に維持されている。

祭祀が行われるのは，人間の生と死にまつわる行事の際がほとんどである。パラオにおける出産は，比較的近年まで死と隣あわせの行為であり，無事に出産を終えることは，盛大に祝われることであった[8]。また，死に関しても，埋葬場所はクラン間の勢力関係を決定づける重大な問題であり，親族間で十分な話合いが持たれた末に決定される事項である[16]。以上２つの意味で，祭祀の

*東京大学大学院工学系研究科　**日本大学生物資源科学部

行われる場は，パラオにおいて重要な意味をもつと言える。

（3）研究方法

本研究では，2009年3月，2010年3月・9月に行った現地調査をふまえ，生と死にまつわる祭祀について，植物利用と空間構成の二つの視点から分析を行った。

まず，祭祀における植物利用に関しては，生と死にまつわる祭祀と関連する植物を文献[8,17]から収集した上で，ヒアリング調査を行い，詳細な利用方法を明らかにした。

次に，祭祀空間の構成に関しては，祭祀の執り行われる場所，祭祀空間における植栽，祭祀空間の構成の3つの視点から分析を行った。祭祀の執り行われる場所は，現地調査から，家周りの園芸空間，クランの墓地，集合墓地の3つが存在した。そこで，祭祀空間における植栽は，家周りの園芸空間4か所，クランの墓地4か所，集合墓地1か所を選定し，毎木調査を行った。毎木調査は，それぞれ家や墓などの主要な構成要素が中心に含まれるよう，30m四方の区画を設定し，その中に生育する植物の種類と本数を調査した。祭祀空間の構成は，家周りの園芸空間，クランの墓地，集合墓地のそれぞれについて，100分の1の図面を作成し，空間構成の特性を明らかにした。

3．結果

（1）パラオの生と死にまつわる祭祀と植物利用

1）生にまつわる祭祀

生にまつわる祭祀には，初子の出産を終えた母親を祝い，労うための伝統儀式がある。これは，湯浴び，蒸気浴び，披露目という3つのプロセスを経て行われる。まず，産婦は薬草やレンブを煎じた湯を浴びる。その際，火傷を防ぐため，ウコンの地下茎をすりおろして椰子油に混ぜたものを身体に塗られる。これを一日に数回，5日から10日続ける。次に，披露目の前日に蒸気浴びが行われる。これは，タケでできた小屋の中で，イランイランの花・ココヤシ・薬草・柑橘類の葉・タコノキの花等を熱した蒸気を浴びることで，内臓器を清浄化する儀式である。最後に，親族への披露目が行われる。産婦は全身にウコンと椰子油を混ぜた黄色の液を塗られ，頭にハイビスカスなどの花飾りをあしらわれる。ブーケを持ち，ココヤシで編まれたマットの上を歩き，集まった親戚から薬草湯で足を洗われる。

なお，この儀礼の際，薬草の選定や収集などは，妻方の出身クラン内の女性の役割である。また，それらの植物利用に関する世代間での知識伝達も，妻方クラン内においてのみ行なわれる。これは，母系社会であるパラオの特徴の一つであると考えられる。

2）死にまつわる祭祀

人が息を引き取る段階になると，柑橘植物の葉を沸かした香水で全身を清め，椰子油とウコンが塗られる。通夜が行われる際には，墓の両側に食物，ビンロウの実が供えられ，夜中灯りが灯される。死者がタイトル(dui)[18]の保持者である場合，位移譲の儀式が行われる。埋葬前に，死体を入れた棺を植物の束（dui）[18]で軽くたたく。これは，葉の開いていないヤシの若葉，野生のタロイモ，クロトンの葉を合わせ，束にしてヤシの葉で一まとめにしたものである。続いて，墓に埋葬された後，3日から1週間のうちに，sis[19]と呼ばれる儀式が行われる。これは，センネンボク（sis）[19]の枝を瓶に飾り，センネンボクを揺らしながら呪句を唱えるものである。

3）生と死にまつわる祭祀用植物

以上に述べた中で，生と死にまつわる祭祀に利用される代表的な植物14種が明らかになった。即ち，生と死双方の祭祀に用いられる植物4種（柑橘類，ココヤシ，タロイモ，ウコン），生にまつわる祭祀にのみ利用される植物7種（タケ，薬草，ハイビスカス，レンブ，レモングラス，イランイラン，タコノキ）死にまつわる祭祀にのみ用いられる植物3種（クロトン，センネンボク，ビンロウ）である。

（2）パラオの祭祀空間の構成

1）祭祀の執り行われる場所

初子誕生の儀式が行われるのは，産婦の実家もしくは，伯父や叔父の家の庭先に臨時に作られた小屋である。披露目の際，家に隣接してodesongelと呼ばれる石の基礎[20]がある場合，産婦がその上に立つ。同じ石の基礎は，死者が埋葬され，葬式やタイトル移譲の儀式が行われる場でもある。つまり，家周りの園芸空間は，日常生活の中心であるだけでなく，生や死にまつわる祭祀の舞台でもあるのだ。

しかしながら，現在のイミョング集落にて，石の基礎を有する家は25軒中6軒のみである（図－1，★印）。石の基礎がない家の場合，初子誕生の儀式は家の前で行なわれるが，葬儀は別の二つの場所で行なわれる。

一つは，湖の南側の北向き斜面の中腹にある，クランの墓地である。クランの墓地は，現在，育林地（telemetamel）の中に4つ存在する（図－1，I～IV）。これらは古い石畳沿いに立地している。住民の話によると，ここにはかつて家が立ち，集落の中心部を形成していた。しかしながら，戦後，水辺に設けられた車道沿いへ家屋が移り，現在は石の基礎とその上に設けられた墓のみが存在している。

もう一つは，集落の南の丘の上にある集合墓地（図－1）である。これは，文献21）で述べられているように，日本統治期の公衆衛生政策によって屋敷地への埋葬が禁止されたため，集落中心部から離れた場所に設置されたものである。

このように，初子誕生の儀式は，今日でも家の庭で行われているが，埋葬場所に関しては，育林地内に残るクランの墓地，丘上草地に設けられた共同墓地も利用されるように変化している。なお埋葬の際，位の高い住民は必ずクランの墓地に埋葬されるが，その他の住民については，親族が協議の上，家周りの園芸空間，クランの墓地，集合墓地の3か所のいずれに埋葬されるかが決定されている。

2）祭祀空間における植栽

図－1　イミョング集落の空間構造（図中のA～Dは植生調査を行なった家を，I～IVはクランの墓地のランクを示す。）

祭祀空間における植栽として，4 つの家周りの園芸空間，4 つのクランの墓地，集合墓地１つに対して，30m 四方に見られる木草本の種類と本数を表－１にまとめた[22]。なお，家周りの園芸空間は，石の基礎の隣接する古い家（図－１，Ａ・Ｂ）と，石の基礎の隣接しない比較的新しい家（図－１，Ｃ・Ｄ）を選定した。

家周りの園芸空間には，祭祀用植物が 10 種植栽されている。生と死に共通するもの４種，生に関連するもの３種，死に関連するもの３種であり，生と死双方の祭祀に重要な植物が植えられている。なお，祭祀に用いられる植物のうち，草地にのみ生えるタコノキとイランイランは，家周りの空間には見られない。また，祭祀に利用される植物以外には，バナナ，マンゴー，ランブータンなどの果樹が多く植栽されている。クランの墓地（図－１，Ⅰ～Ⅳ）には，祭祀用植物が８種みられる。特に，死の祭祀に利用される植物７種のうち，柑橘類を覗く６種がみられる。また，家周りの園芸空間に多くみられたハイビスカス等の装飾花や，マンゴー等の栽培作物は見られないが，粗放的管理のもとに自生するカロリンオオバギ，タイワンウオクサギ，アイス，トオンなどの在来種が見られる。集合墓地（図－１）には，祭祀用植物のうち，クロトンとレモングラスの２種のみが植栽されている。その他には，ヤエヤマアオキと観賞・装飾用植物１種が植えられているのみである。出現種数は，家周りの園芸空間やクランの墓地と比較して極めて低い。

また，家周りの園芸空間，クランの墓地，集合墓地の３つの空間において，全ての出現植物の種数と本数に対する祭祀用植物の割合を表－２と表－３[23] に示した。種数の割合をみると，家周りの園芸空間の平均が 39%(6 種)，クランの墓地の平均が 40%(5 種)，集合墓地が 50%(2 種)である。家周りの園芸空間とクランの墓地の値が低くなっているが，これは，果樹など日常生活用の植物が植えられている家周りの園芸空間と，自生する在来種が多く生えているクランの墓地の特性が現れていると考えられる。一方，本数の割合をみると，家周りの園芸空間の平均が 65%(69 本)，クランの墓地の平均が 46%(23 本)，集合墓地が 38%(10 本)となっている。特に，家周りの園芸空間において祭祀用植物の出現する割合が高く，祭祀にまつわる植物が，家周りの園芸空間を特徴づける重要な要素となっていると考えられる。

３）祭祀空間の構成

家周りの園芸空間，クランの墓地，集合墓地それぞれに対して，30m 四方の区画の図面化を行ない，祭祀利用の植物を，灰色で着色して示した（図－２）。家周りの園芸空間は，植栽調査を行った 4 軒のうち，家に隣接した石の基礎がみられた家屋Ａを選出した。クランの墓地は，最も位の高いクランⅠのものを選出した。

家周りの園芸空間には，家の前面に石の基礎が設けられ，その上に墓が設けられる二段構成になっている。特に，その石の基礎の内外に，ココヤシ，ビンロウ，クロトン，センネンボク等の祭祀用植物が密に植えられている。

クランの墓地は，周囲は高さ 30cm 程の石で囲われており，その中に 26 基の墓石が設置されている。石に沿ってセンネンボクが多く植えられているが，石の中は芝刈りがなされており植栽は少ない。また，石の周囲は，二次林となっており，鬱蒼とした森が続いている。

丘の上の集合墓地には，61 基の墓石が並んでいる。墓の周囲には，入り口に配されたレモングラスの他に，数本のクロトンとヤエヤマアオキなどがまばらにと生えるのみで，樹高の高い樹木はない。そのため，丘の上から西に開ける海を見晴らせる空間となっている。また，墓地の周囲に石積みは見られず，個々の墓も必ずしも石積みを有しておらず，石の基礎をコンクリートブロックやタイルで代用した簡易的なものもみられた。

このように，祭祀にまつわる３種の空間は，植物の出現種数お

表－１　祭祀空間にみられる植物（表中の数値は出現本数を示す。ただし，観賞・装飾用植物の括弧内の数値は種数を表す。）

		主な用途	パラオ語名	和名	学名	出現本数 家周り A	家周り B	家周り C	家周り D	クラン墓地 Ⅰ	クラン墓地 Ⅱ	クラン墓地 Ⅲ	クラン墓地 Ⅳ	集合墓地
祭祀用植物	1	生	Bamboo	タケ	*Phyllostachys* sp.		群生					群生		
	2	生	Chemadcharbub	薬草	*Ocimum sanctum*				群生					
	3	生	Bussonge	ハイビスカス	*Hibiscus rosa-sinensis*	1	9							
	4	生	Rebotel	レンブ	*Syzygium samarangense*							1		
	5	生	Keskus	レモングラス	*Cymbopogon citrarus*									8
	6	生・死	Meradel	柑橘類	*Citrus aurantifolia*	1	1							
	7	生・死	Lius	ココヤシ	*Cocos nucifera*		6	10	6	5	19	3	2	
	8	生・死	Dait	タロイモ	*Araceae* spp.		群生				群生			
	9	生・死	Kesol	ウコン	*Curcuma longa*	群生				群生				
	10	死	Kesuk	クロトン	*Codiaeum variegatum*	5		9	5	3		2		2
	11	死	Sis	センネンボク	*Cordyline fruticosa*	16	1	3	11			4	29	
	12	死	Buuch	ビンロウ	*Areca catechu*	25	30	72	66	13	1	6	3	
祭祀にまつわる植物　合計本数						48	47	94	88	21	20	16	34	10
その他	13	食用	Imerkurs	ナガバノゴレンシ	*Averrhoa bilimbi*				1					
	14	食用	Kuabang	グァバ	*Psidium guajava*	1			1					
	15	食用	Deb	サトウキビ	*Saccharum officinarum*	1								
	16	食用	Kemim	ゴレンシ	*Averrhoa carambola*		1							
	17	食用	Bata	アボガド	*Persea americana*		1							
	18	食用	Ongorngberd	パインアップル	*Ananas comosus*		9							
	19	食用	Tuu	バナナ	*Musa* spp	25	3		19	5	22	6	15	
	20	食用	Bobai	パパイヤ	*Carica papaya*	5			1					
	21	食用	Rambotang	ランブータン	*Nephelium lappaceum.*		3		6					
	22	食用	Mangostin	マンゴスチン	*Garcinia mangostana*		1							
	23	食用	Titimel	アムラタマゴノキ	*Spondias pinnata*	1				1	1		1	
	24	食用・建材	Iedel	マンゴー	*Mangifera indica*		2	3	1					
	25	建材	Ukall	－	*Serianthes kanehirae*				1					
	26	観賞・装飾	－	観賞・装飾用植物	－	16 (4)	5 (2)	19 (4)	6 (2)	5 (2)				8 (1)
	27	薬用	Ngel	ヤエヤマアオキ	*Morinda citrifolia*	6	2		8	3	1	13	4	8
	28	食用	Meduu	パンノキ	*Artocarpus altilis*					2				
	29	薬用	Chosm	タイワンウオクサギ	*Premna serratifolia*							4	3	
	30	薬用	Bedel	カロリンオオバギ	*Macaranga carolinensis*						5	1	1	
	31	建材	Cheritem	アイス	*Parinarium glaberrimum*						3			
	32	建材	Kelela charm	トオン	*Campnosperma brevipetiolata*						1			
	33	建材	Btaches	タマナ（テリハボク）	*Calophyllum inophyllum*							1		
	34	装飾	Kesiamel	ヤツデ	*Osmoxylon oliveri*							1		
	35		不明	－	－					1	3	5	1	
その他の植物　合計本数						55	27	22	44	17	36	31	25	16
総本数（本）						103	74	116	132	38	56	47	59	26

表－２　祭祀用植物の出現割合（種数）

	家周りの園芸空間 A	B	C	D	平均	クランの墓地 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	平均	集合墓地
祭祀用植物の出現種数	6	7	4	5	6	5	3	7	3	5	2
全ての植物の出現種数	16	17	9	15	14	12	10	14	9	11	4
祭祀用植物種の出現割合	38%	41%	44%	33%	39%	42%	30%	50%	33%	40%	50%

表－３　祭祀用植物の出現割合（本数）

	家周りの園芸空間 A	B	C	D	平均	クランの墓地 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	平均	集合墓地
祭祀用植物の出現本数	48	47	94	88	69	21	20	16	34	23	10
全ての植物の出現本数	103	74	116	132	106	38	56	47	59	50	26
祭祀用植物の出現割合	47%	64%	81%	67%	65%	55%	36%	34%	58%	46%	38%

図－２　祭祀用植物の分布（左：家周りの園芸空間、中：クランの墓、右：集合墓地。色着きが祭祀用）

凡例：Am:アムラタマゴノキ、Ba:バナナ、Br:パンノキ、Co:ココヤシ、Ca：カロリンオオバギ、Ci：柑橘類、Cr: クロトン、Fl：観賞・装飾用植物、Gu：グァバ、Hi：ハイビスカス、Le：レモングラス、Mo：アサガオ、No：ヤエヤマオアキ、Pa：パパイヤ、Pl：プルメリア、Ro：バラ、Sc：サトウキビ、Te：ウコン、Ti:センネンボク、無記入:ビンロウ

よび空間構成において異なる特徴を有している。

４．　結論

パラオにおける祭祀と植物利用，および祭祀空間について，以下の点が明らかになった。

第一に，調査でみられた祭祀に利用される植物は，生の祭祀にまつわるものが９種，死の祭祀にまつわるものが７種，双方に用いられるものが４種である。特に，アグロフォレストリーの一種である家周りの園芸空間は，生活の中心として食用や薬用に供する植物が植栽されているが，同時に，祭祀に用いられる植物が数多く植栽されている。

第二に，家周りの園芸空間では，家に隣接して墓を有する石の基礎が設けられ，その内外に，生と死にまつわる双方の祭祀用植物が密生するという特徴的な空間構成がみられる。

第三に，生にまつわる祭祀は，現在でも家周りの園芸空間で執り行われるが，死にまつわる祭祀は，集落の構造変化の際に育林地内に残されたクランの墓地と，日本統治期に普及した丘上の集合墓地でも行われるようになっている。即ち，家周りの園芸空間における生活・生・死の空間の一体的な結びつきは，クランの墓地や丘上の集合墓地の存在により，徐々に変化している。

このように，祭祀の執り行われる場所は変容過程にあるが，生と死の双方の祭祀が行なわれる家周りの園芸空間は，現在においても，祭祀利用の植物と密接に関連して形成されている。すなわち，祭祀が執り行われる場，および祭祀用植物を栽培する中心的な場として，文化的に重要な意味を持っている。

謝辞：研究の遂行にあたり，東京大学GCOE「都市空間の持続再生学の展開」及び東京大学 AGS(Alliance for Global Sustainability)からご支援をいただきました。また，調査にあたっては，東京大学大学院村本健造氏の協力を得ました。心より感謝申し上げます。

補注及び引用文献

1)　村武 精一(1997):アニミズムの世界-歴史文化ライブラリー16:吉川弘文館，pp.152-164
2)　金樹華(2002)：漢代以前（～A.D.220）の神樹木類及び祭祀用としての植栽:ランドスケープ研究 65 (5)，pp.435-438
3)　東出 紀子（2004）:アカ・ハニ族の口承伝統と記録・継承活動:平成15年度沖縄国際フォーラム報告書「沖縄のうたきとアジアの聖なる空間」，p97-102
4)　金城 正紀・片山 和俊・光井 渉(2006): 竹富島における祭祀の機能と集落の空間構成に関する研究：穂利祭(プイ)の祭祀空間についてその１:日本建築学会計画系論文集(604)，pp61-68
5)　村武 精一（1984）：祭祀空間の構造-社会人類学ノート：東京大学出版会，pp239
6)　飯田 晶子・野口 翠・大澤 啓志・石川 幹子（2010）：ミクロネシア島嶼パラオ共和国における集落の文化的景観に関する研究- バベルダオブ島アイライ集落を事例に：都市計画論文集，No.45-3，pp97-102
7)　飯田らは，パラオにおけるアグロフォレストリーはmekesokes（家周りの園芸空間），telemetamel（育林地）mesei（湿性タロイモ畑），sers（畑地）の４種類に分けられ，それぞれが自然立地条件に倣った有効な土地利用であるとしている。
8)　土方 久功（1990）：土方久功著作集１－パラオの社会と生活：三一書房，pp299-301
9)　H.G. Barnett（1949）：Palauan Society-a study of contemporary native life in the Palau Islands: University of Oregon Publications, p147
10)　Steven Victor (2007)　Coral Reefs of Palau，Palau International Coral Reef Center，p10
11)　Augustin Kramer(1919)：Result of South Pacific-Expandition 1908-1910：Hamburg L.Friedrichseen&co.，pp183
12)　飯田晶子・野口 翠・大澤啓志・石川幹子（2010）：流域圏を基盤とする集落の持続的土地利用に関する研究：ミクロネシア島嶼パラオ共和国・バベルダオブ島を対象として：都市計画論文集，No.45-1，pp.45-50
13)　印東道子（2005）:ミクロネシアを知るための58章：明石書店，pp104-108
14)　「シューカン」は，日本語に由来する外来語であるが，現地ではパラオ語として通用する言葉となっている。
15)　クランとは,「一人の女性祖先と禁忌魚を共有し,特定の名称をもち,外婚規制をともなう出自集団」[24] である。
16)　遠藤央(2002)：政治空間としてのパラオ－島嶼の近代への社会人類学的アプローチ：世界思想社，pp.139-145
17)　Mandy T.Etpison（1997）：Palau-Portrait of Paradise，pp.251
18)　「タイトル」とは，固有名で地位を表す称号であり，パラオ語でduiと呼ばれる。これは位移譲の儀式で用いられる葉束duiの名前が転じたものである[8]。
19)　センネンボクは，パラオ語でsisと呼ばれるが，タイトル移譲の儀式の名前としても定着している。
20)　石の基礎（odesongel）とは，高さ30cm程の石積である。熱帯のパラオでは，豪雨の被害を避けるため，家屋は石の基礎の土台の上に形成され，それらを結ぶ道は裸足でも歩きやすいよう石畳となっていた。
21)　飯高 伸五（2006）：パラオの葬儀における首長位称号の客体化—屋敷地への埋葬と食物の分配を事例として：社会人類学年32，pp127-143
22)　植物種の同定に際しては文献25，26）を参照した。なお，草本は一律，「群生」と標記している。「鑑賞・装飾用植物」には，バラ，アサガオ，アリアケカズラ，サンタンカ，ヘリコニア，ベニヒモノキが含まれる。
23)　表－３の出現本数には，「群生」と記した草本類を合計本数から除外して算出している。
24)　須藤 健一（1988）：ミクロネシアの土地所有と社会構造:国立民族学博物館研究報告別冊６号，pp141-176
25)　PalauCommunity College（2003）:Medicinal Plants in Palau volume1：PCC-CRE Publication，pp46
26)　Ann Hillmann Kitalong，Robin Ann Demeo，Tarita Holm(2008)：Native Trees of Palau:USP-Library，pp.237